学校経営計画

１　校訓

「至誠・協同・勇気」

２　教育目標

自らを律する力を養い、感じる心、考える力を育てる

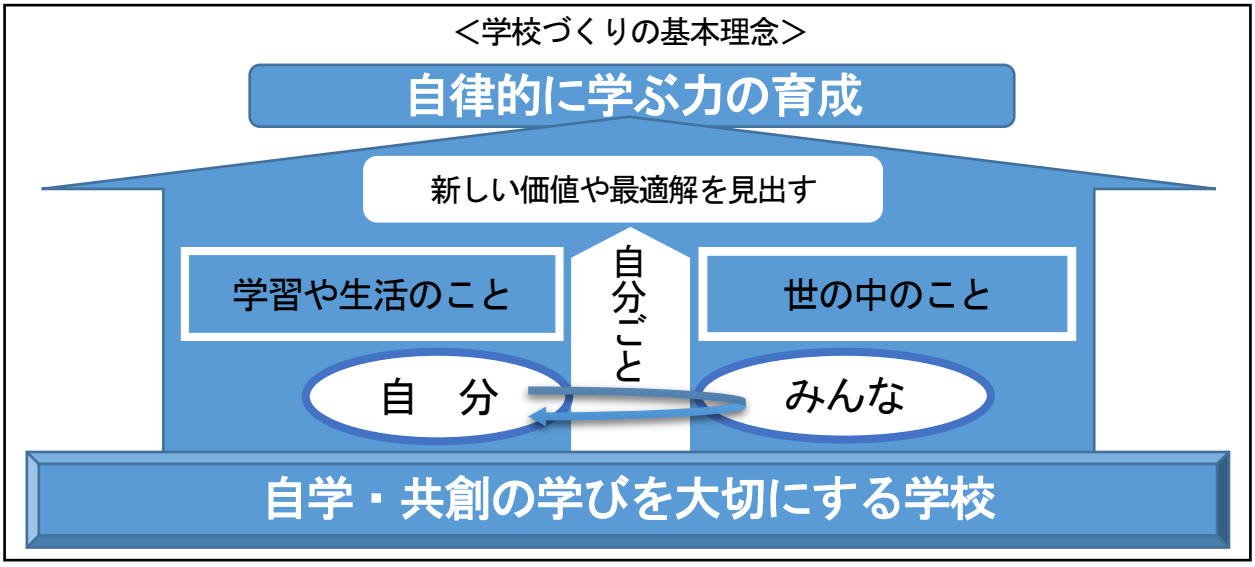
３　学校づくりの基本理念

激しい変化が止まることのない時代を生きていく子供たちには、生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力を身に付けることの重要性が増している。その一方で、異なる価値観を持つ多様な他者と、当事者意識を持って対話を行い、問題を発見・解決できる「持続可能な社会の創り手」となることも求められている。

そして、このような時代の要請を受け、金沢市においては、令和７年度より新金沢型学校教育モデルの実践、令和８年度より金沢市教育振興基本計画が始まった。

令和６年度に創立 150 周年という大きな節目を迎え、令和 11 年度途中（予定）に新校舎への移転を控えた本校においては、時代の要請や金沢市立学校で行うべき実践の方向性に鑑み、改めて、「至誠・協同・勇気」の精神のもと、自らを律する力を養い、感じる心、考える力を育てることを根幹に据えることが肝要であると考える。

これらのことを踏まえ、本校では「自律的に学ぶ力の育成」を目指し、「自分」のことを大切に、「みんな」のことを「自分ごと」のように大切にし、「学習や生活」のことや「世の中」のことなどを「自分ごと」で考え、「自分」が「みんな」と新しい価値や最適解を見出そうとする姿を引き出す教育を目指す。そして、そのような教育活動を行う学校を「自学・共創の学びを大切にする学校」として捉え、児童にとっての「知」「徳」「体」「学校と地域」の基盤を整える視点をもって学校づくりを行っていく。



これらの力や心を育むための学びの場、教育環境となる新校舎が整備されようとする中、児童や教職員、保護者や地域の方々の思いや願いを大切にしながら、その環境を生かした教育を行うための見通しや展望を明らかにしながら学校づくりを進めていく。

（１）「知」の基盤づくり

児童が学習の主体者として、学習対象や内容、方法や過程等を「自分ごと」で捉え、「みんな」と協働しながら、新しい価値や最適解を見出していく経験を重視し、「探究」の礎となる日々の「問題解決的な学習」をより一層充実した学校づくりに努める。

・「自分」が「みんな」と教科書や ICT 活用等を基に主体的・能動的に行う学習の重視　等

（２）「徳」の基盤づくり

児童が「自分」の学校生活において、「みんな」の存在が欠かせないことを実感しながら、互いを認め合う心を育み、共感的な人間関係の中で学ぶことのできる学校づくりに努める。

・毎日の学校生活で「自分」や「みんな」のよさに気付く機会の保障

・「挨拶・会釈」で「自分」が「みんな」とつながる心地よさの実感の重視　等

（３）「体」の基盤づくり

児童が「自分」の基本的な生活習慣を見直し、健康の保持増進と体力向上に努めるとともに、「みんな」の協力や援助等を実感しながら努力・工夫できる学校づくりに努める。

・健康の保持増進と体力向上を「自分ごと」で考えて実践する機会の重視　等

（４）「学校と地域」をつなぐ基盤づくり

児童が「自分」や「みんな」の学びを、学校と地域が一体となって支えてくれていると実感できる教育活動を大切にし、将来の地域の創り手を育てていく学校づくりに努める。

・保護者や地域の方々の教育力を生かす取組の推進及び情報発信　等

４　目指す児童像・学校像・教師像

（１）目指す児童像

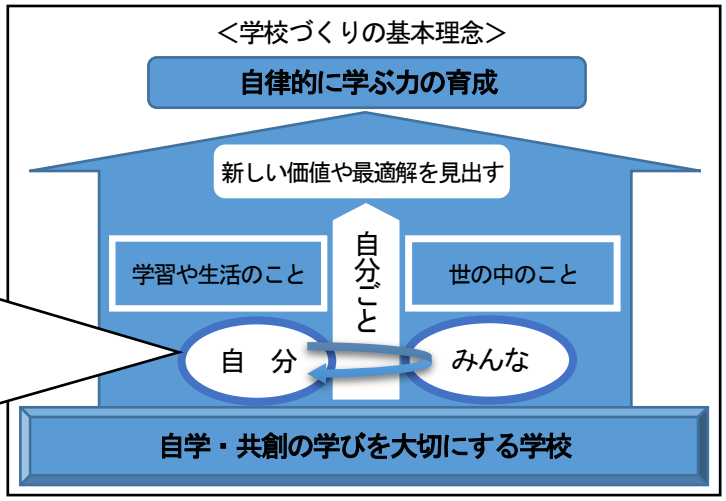
「自分」を大切に、「みんな」のことを「自分ごと」のように大切にし、「学習や生活」のことや「世の中」のことなどを「自分ごと」で考え、「自分」が「みんな」と新しい価値や最適解を見出そうとする姿を求め、以下の児童像を目指す。

＜目指す児童像＞

□「自分ごと」で考える子

□「みんな（相手）の立場」で考える子

□「みんな（相手）」とともに考え、やりぬく子



□「自分ごと」で考える子

・「学習や生活」や「世の中」などのことを、「なぜ」「どうして」の思いを動機にしながら「自分はどう思うか」「自分はどうしたいか」「自分に何ができるか」を考える。

（思考力・判断力・決断力、主体性・創造性、本質理解・分析　等）

□「みんな（相手）の立場」で考える子

・「みんな（相手）はどう思うか」「みんな（相手）はどうしたいか」など、他者のことを「自分ごと」に捉え、「みんな（相手）に対して何ができるか」を考える。

・「みんな（相手）」を認め、「みんな（相手）」に認められることを通じて、自他のよさや可能性に気付く。

（自己肯定感・自己有用感、共感的人間関係、感謝・尊敬・安心感・励み　等）

□「みんな（相手）」とともに考え、やりぬく子

・目標やゴールに向かって努力・工夫し、他者の協力や援助等を実感しながら行動する。

・うまくいかないことや失敗したことを、次の成功への糧として受け入れて行動する。

（実行力・忍耐力、達成感・自信・成長実感　等）

（２）目指す学校像　～心理的安全性と物理的安全性を兼ね備えた学校～

目指す児童像を実現していくための学校像を「自学・共創の学びを大切にする学校」とし、以下の三点を大切にしていく。

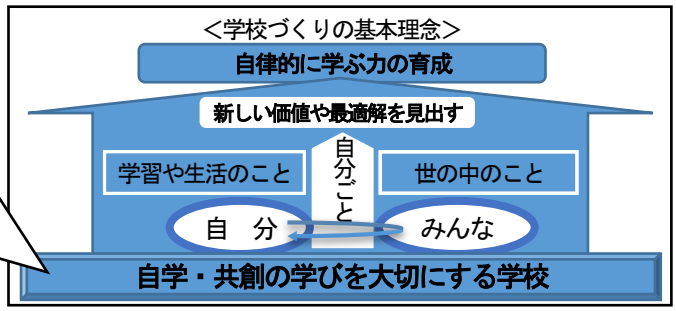
＜目指す学校像＞

□自学・共創の学びを大切にする学校

・「自分」と「みんな」を大切に

・「小さな感動」を大切に

・安全に通うことを大切に



・「自分」と「みんな」を大切に　※心理的安全性を備えた学校

「分からない」「できない」ことが「分かった」「できた」となる児童の実感を重視し、そのために「聞く」ことを大切にした指導を徹底する。

・「小さな感動」を大切に　※心理的安全性を備えた学校

教師と児童、児童と児童において、わずかな様子や変化に表れるよさや成長の姿を認め合い、喜び合うことができるようにする。（＝「小さな感動」）

（教師が児童を認める→児童が教師を認める→児童が児童を認める）

・安全に通うことを大切に　※物理的安全性を備えた学校

校内外の環境について、地域の方々や保護者等の意見に耳を傾けながら、常に改善できるところはないかという意識を大切にする。

教職員が共に校内外を巡視し、互いの視点や気付きを共有することを通じて、危機管理意識を高め合うとともに、安全に生活できる環境整備を行う。

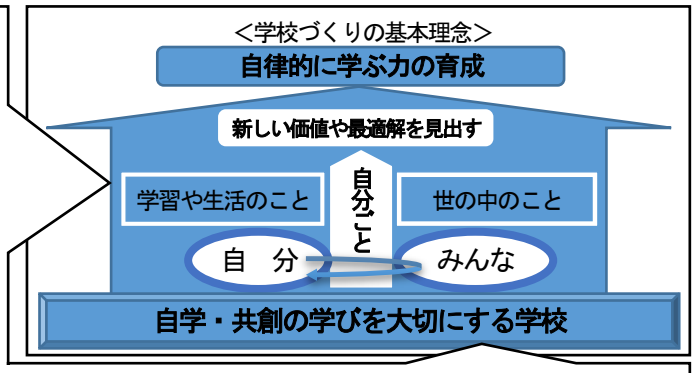
（３）目指す教師像

目指す児童像や目指す学校像を実現していくための教師像を、以下の「教師の姿勢」と「教師の体制」の視点に整理して目指していく。

＜目指す教師像＞

□目指す教師の姿勢

「自分ごとで考える」姿勢
「学び方を教える」姿勢
「引き出す」姿勢
「褒めるところまで導く」姿勢
「褒めるときこそ、立ち止まる」姿勢
「小さな感動を見付け、伝え、広め、共に喜ぼうとする」姿勢
「一人の大人として、社会人として、公務員としての自覚を持つ」姿勢



□目指す教師の体制

「そろえる、やりきる、確かめる」体制
「無理なく、無駄なく、あたたかい」体制
「チーム学年」体制
「協働的ＯＪＴ」体制
「業務の平準化と効率化」体制

□目指す教師の姿勢

・児童や保護者、他の教職員や地域の方々などのことを「自分ごとで考える」教師
・児童に「学び方を教える」教師
・児童の資質や能力、知識や技能、見方や考え方などを「引き出す」教師
・児童を「褒めるところまで導く」教師
・児童を「褒めるときこそ、立ち止まる」教師
・児童の「小さな感動」を見付け、伝え、広め、共に喜ぼうとする教師
・一人の大人として、社会人として、公務員としての自覚を持つ教師

□目指す教師の体制

・「そろえる、やりきる、確かめる」体制
→「誰もが同じベクトル」で「誰もができるやり方」を「誰もがやりきるチームワーク」で実践し、成果と課題を実感しながら「誰もが学校づくりの主体者」となる体制
・「無理なく、無駄なく、あたたかい」体制
→教師には年齢差や経験差があり、考え方や指導力にも違いがある。児童も同様である。児童の教育をつかさどる者として、教師自身が互いを知り、違いを受け止め合いながら、どの教師にとっても、無理なく、無駄なく、あたたかく、それぞれの成長につながる実践を積み重ねていくことができる共助体制
・「チーム学年」で児童を指導・支援する体制
・学年Ｔ・Ｔや教科担任、学級交換授業等を取り入れながら、質の高い授業づくりや指導力向上に努める「協働的ＯＪＴ」体制
・「今、すべきこと」「後でもよいこと」「今、しておくと後に余裕が出ること」等、職務優先度や必要度を明確にし、焦点化して取り組むことで、業務の平準化と効率化を目指す体制

５　経営方針

学校づくりの基本理念に基づき、目指す児童像、目指す学校像、目指す教師像を実現していくために、以下の５点を大切に学校経営を行う。

（１）「人財」

教職員はかけがえのない「人財」である。教職員一人一人が心身ともに健康を保ちながら、笑顔で活気のある存在であることが、児童の教育をつかさどる学校力そのものであることを念頭に学校経営を行う。そのために、教職員の業務へのやりがいや向上心及びワークライフバランスを重視する。

また、それらは、児童や保護者、地域の方々の理解と協力があってのものであることにも留意する。

（２）「共助の体制」、そのための「縦の系統と横の連携」

教職員個々で対応せず、組織で対応することを大切にするとともに、教職員一人一人が孤立することのなく「無理なく、無駄なく、あたたかい」共助の体制づくりを大切にする。そして、「小さな感動」も、よくない出来事も、学年組織や学校組織で共有しながら指導し、マイナス事案（怪我や事故、人間関係トラブル等）ほど、まずは「構えずに 抱え込まずに 報・連・相」を念頭に組織で対応していく。地域や保護者への誠実かつ謙虚な対応のもと、連携を深める。

（３）「困難や失敗を恐れず、騒がず、厭わず」

「困難の先にこそ、成長がある」「失敗を恐れるより、何もしないことを恐れろ」「私は失敗したことがない。ただ、「一万通りのうまくいかない方法」を見付けただけ」など、困難・失敗と成功・成長との関係を意味付ける先人の言葉は数多く存在する。

学校は人の成長を促す場である。児童の成長のために、そのためにも教職員自らが成長するために、困難や失敗を恐れず、騒がず、厭わずに取り組むことを大切に学校経営を行う。

（４）「引き出す」ことを大切にしながら「指導」する

「自学・共創の学び」を築くために、改めて「教育＝エデュケーション」の語源は「引き出す」であることを念頭に、教師の働きかけが「説明」や「伝達」、「指示」や「指摘」などで終わることなく、児童の資質や能力、知識や技能、見方や考え方などを引き出しながら、「分かる」「できる」ところまで導く「指導」の意識を大切に学校経営を行う。

そして、教師は、「指導」の過程や結果において、児童個々のよさや成長の姿（＝「小さな感動」）を見付け、誉め、共に喜ぶ姿を示し、児童の自己肯定感や心理的安全性を大切にするとともに、次への意欲付けにつながる関わりを大切にする。

（５）「時を守り、場を清め、礼を正す」ことを基本とした「凡事徹底」

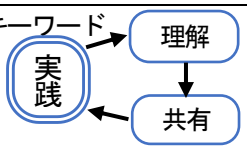
児童は、将来の社会の創り手である。将来に向けて、社会生活の基盤となる「当たり前」を、小学校の発達段階に応じて大切に指導する。具体的には、６年間の小学校生活を通じて、基本的な生活習慣（特に「挨拶・会釈」「身の回りの整理整頓」「規範意識（ルールを守って生活する）」）と学習習慣（特に「人の話を聞く」）が、児童にとって「大切なこと」「当たり前」となって中学校へ送り出せるよう、それらの定着に向けて取り組む。

６　中期的目標と方策（令和８年度は「実践期２年目」）

新校舎への移転を伴う今後の約 10 年間を見据え、新校舎の完成前・完成時・完成後を、それぞれ数年単位で「実践期」「価値実感期」「構築・定着期」と捉え、本校がこれまでの歴史の中で積み重ねてきた実践に、新たな時代の要請や金沢市立学校で行うべき実践の方向性、新たな校舎での実践の在り方を加えた学校文化の構築・定着を目指し、以下の中期的目標と方策を持つ。

実践期

①キーワード



②目標「理解と共有、そして実践」

教職員や児童、保護者や地域の方々が、それぞれの立場から「学校づくりの基本理念」「目指す姿」「経営方針」について理解・共有するとともに、実践に移していく。そして、実践を通じて、理解・共有をさらに深めていく。

③方策

(ｱ)「自分ごとで考える」学習～金沢型学習スタイルを基に金沢探究スタイルを目指す授業づくり～

・「問題解決的な学習」の充実～金沢型学習スタイルによる実践の充実～

児童の主体的・能動的な姿を引き出す学習を行うために、児童にとっての学習の目的意識や相手意識、場面・状況・条件意識、方法意識、評価意識をより明確にした授業実践に取り組む。

・「学び方を教える」指導の試行的実施～金沢探究スタイルへとつながる児童の学びに向かう意識の転換～

児童の実態に応じて学び方を教え、教科書や資料を基に、児童自らが進行する授業に取り組む。

(ｲ)「自分ごとで考える」生活

・「椅子を入れる」「机の前後左右を整える」「ルールを守る」取組

他者の声に耳を傾けるところから自身の成長が始まるという聞く態度を身に付けていくために、まず、「机の前後左右を整え」、椅子に座って話を聞く際は「椅子を入れる」ことに取り組む。

「ルールを守る」ことが「自分を守り、周囲の人たちを守り、生活を守る」という意識の醸成と実践する力を身に付けていくために、ルールの意義や必要性、ルールをどうすれば守ることができるようになるか等を自分ごととして考えながら、年間を通じて着帽やネーム着用、廊下歩行等のルールを守ることに取り組む。

・「挨拶・会釈」の取組

他者との関わりは「挨拶・会釈」から始まるという姿勢を身に付けていくために、「みんな（相手）はどう感じるか」「みんな（相手）に対してどのような挨拶・会釈ができるか」を考える機会を持ちながら、「挨拶・会釈」に取り組む。

・「今日の〇〇」の取組

年間を通じて、一日の中での「小さな感動」（わずかな様子や変化に表れるよさや成長の姿）への気付きを言語化し、認め合い喜び合う場として、終わりの会で、一日を振り返り、他者の良さを言語化する場「今日の〇〇」に取り組む。全校朝会や学年集会等での紹介や全校・学年・学級掲示等を行い、広げていく。

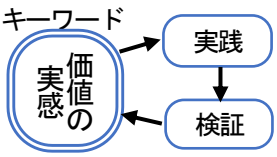
(ｳ)「自分ごとで考える」体制

・「学年Ｔ・Ｔや教科担任、学級交換授業」の試行的実施

教師相互の共助の姿勢を大切にした協働的 OJT による授業を目指し、教師の実態に応じて実践しやすい教科や学習単元等において、学級交換授業や学年 T.T 授業に試行的に取り組む。

価値実感期

①　キーワード



②目標「実践と検証、そして価値の実感」

新校舎を生かしながら実践と検証を重ね、教職員や児童、保護者や地域の方々が実践に基づく成果を実感し、実践の価値を見出していく。

③方策

(ｱ)「自分ごとで考える」学習～金沢型学習スタイルを基に金沢探究スタイルを推進する授業づくり～

・学習環境デザインの工夫

実践期の「問題解決的な学習」「学び方を教える」について、取り組む価値を明確にするとともに、教材や方法、場等、新校舎を活用した学習環境デザインの工夫に取り組む。

(ｲ)「自分ごとで考える」生活

・「学校の当たり前」から「学校の誇り」を創出するための工夫

実践期の「椅子を入れる」「机の前後左右を整える」「ルールを守る」「挨拶・会釈」「今日の〇〇」の取組について、教職員や児童、保護者や地域の方々が価値を実感できているものから、児童主体で「学校の当たり前」から「学校の誇り」を創出するための工夫に取り組む。

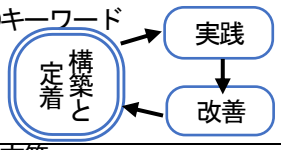
(ｳ)「自分ごとで考える」体制

・協働的 OJT による授業の実施

実践期の「学年Ｔ・Ｔや教科担任、学級交換授業」等の試行的実施を受け、それらを教育課程に位置付けながら、計画的・継続的に取り組む体制を構築する。

構築・定着期

①キーワード



②目標「実践と改善、そして学校文化の構築と定着」

新校舎での実践に改善を加えながら、価値ある実践を継承し、学校の文化として定着するよう育てていく。

③方策

(ｱ)「自分ごとで考える」学習～金沢型学習スタイルを基に金沢探究スタイルに取り組む授業づくり～

・「三馬小学習スタイル（仮）」の構築

新校舎の学習環境デザインを生かし、金沢型学習スタイルを基にしながら金沢探究スタイルに取り組む。

(ｲ)「自分ごとで考える」生活

・「三馬小プライド（スピリット・レガシー・ビジョン･･･）（仮）」の構築

「椅子を入れる」「机の前後左右を整える」「ルールを守る」「挨拶・会釈」「今日の〇〇」等、児童が当たり前にできる、できるようになる、できるようになろうとすることを本校の伝統や誇りとして体系化する。

(ｳ)「自分ごとで考える」体制

・「三馬小指導スタイル（仮）」の構築

教育課程に位置付けた「学年Ｔ・Ｔや教科担任、学級交換授業」等、協働的 OJT 授業を構築し、教職員一人一人を孤立させない共助の体制による指導スタイルを構築する。

７　今年度の重点　～理解と共有、そして実践～

（１）理解と共有

教職員、保護者や地域の方々で、「学校づくりの基本理念」「目指す姿」「経営方針」について理解・共有する。

①職員会議や主任会議、学年会における共通理解と共有
②日常的な協働的ＯＪＴ体制による共通理解と共有
③学校運営協議会やスクールフォーラム等における共通理解と共有
④学校だよりや学校ホームページ等による情報発信　等

（２）実践

「無理なく、無駄なく、あたたかい」共助の体制で、「失敗を恐れず、騒がず、厭わずに」を前提に、理解・共有した内容を、三委員会及び学年会を中心とし、着実に実践につなげていく。

以下の①及び②における令和８年度の実践の重点は、

重点１『児童のモニタリング（自己（相互）評価活動）に取り組む』（「自分ごと」最重要）
～「不足感・充足感」の実感から「より高みを求める」動機付け～
重点２『児童のモデリングに取り組む』（「指導力向上」最重要）
～目指す先へと導く教師による、よい姿を広める価値付け
（写真や動画、振り返り文等）～

①「自分ごとで考える」学習
～金沢型学習スタイルを基に金沢探究スタイルを目指す授業づくり～

- **「問題解決的な学習」の充実（自己選択と自己決定、自己評価による「自分ごと」の学び）**
  ～金沢型学習スタイルによる実践の充実～
  児童の主体的・能動的な姿を引き出す学習を行うために、児童にとっての学習の目的意識や相手意識、場面・状況・条件意識、方法意識、評価意識をより明確にした授業実践に取り組む。教師は、よい姿を写真や動画、振り返り文等で広め、価値付ける。
- **「学び方を教える」指導の試行的実施**
  ～金沢探究スタイルへとつながる児童が学びに向かう意識の転換～
  児童の実態に応じて学び方を教え、教科書や資料を基に、児童自らが進行する授業に取り組む。教師は、よい姿を写真や動画、振り返り文等で広め、価値付ける。

②「自分ごとで考える」生活

- **「椅子を入れる」「机の前後左右をそろえる」＋「ルールを守る」の自己（相互）評価を基盤とした取組**
  他者の声に耳を傾けるところから自身の成長が始まるという聞く態度を身に付けていくために、椅子に座って話を聞く際は「椅子を入れる」「机の前後左右をそろえる」ことに取り組む。教師は、よい姿を写真や動画、振り返り文等で広め、価値付ける。
- **「挨拶・会釈」の自己（相互）評価を基盤とした取組**
  他者との関わりは「挨拶・会釈」から始まるという姿勢を身に付けていくために、「みんな（相手）はどう感じるか」「みんな（相手）に対してどのような挨拶・会釈ができるか」を考える機会を持ちながら、「挨拶・会釈」に取り組む。教師は、よい姿を写真や動画、振り返り文等で広め、価値付ける。
- **「今日の〇〇」の自己（相互）評価を基盤とした取組**
  年間を通じて、一日の中での「小さな感動」（わずかな様子や変化に表れるよさや成長の姿）への気付きを言語化し、認め合い喜び合う場として、終わりの会で、一日を振り返り、他者の良さを言語化する場「今日の〇〇」に取り組む。児童が学年の発達段階に応じて取組の意図や目的を理解できるよう指導した上で取り組む。教師は、よい姿を写真や動画、振り返り文等で広め、価値付ける。

次に、以下の③「自分ごとで考える体制」における令和８年度の実践の重点は、

重点１　『道徳の交換授業』を年間で１０回未満程度行う。（１学期から実施）
重点２　『実践しやすい教科や学習単元等の交換授業』を行う。（概ね１学期から実施）
重点３　『生徒指導対応』は学年協働で行う。（管理職及び生徒指導主事とともに）

③「自分ごとで考える」体制

- **「学年Ｔ・Ｔや教科担任、学級交換授業」の試行的実施**
  教職員間で共通理解を図った上で、児童の実態や教師の状況に応じて学級交換授業や学年T.T授業を、１学期から試行的に実施する。

（３）検証

- **実践の検証と次年度の方向性及び実践内容の整理**
  試行的に実施した状況を踏まえ、教職員や児童、保護者や地域の方々とともに次年度の取組の方向性や内容について整理していく。

８　具体的な方策の工程表

期	月	主な年間行事予定	経営内容
一学期	4	年間を通じた諸会議等 ・学年会（週１回） ・学年教材研究日（週１回） ・教務会（週１回＋随時） ・主任会議（月１回＋随時） ・職員会議（月１回＋随時） ・校内研究授業（全教員） 1　学校経営方針の説明（職員会議） 7　入学式、新任式、１学期始業式 9　２～６年給食開始 15　１年給食開始 22　県基礎学力調査 23　全国学力･学習状況調査 27　遠足 30　授業参観、懇談会、スクールフォーラム	学校経営方針の説明　4/1 経営方針、基本理念、目指す学校像、児童像、教師像等 組織の機能化 主任・主事等の任命、校務分掌に基づく担当指名等 ◇学校経営計画及び学校評価計画の立案 スクールフォーラム　4/28 学校経営方針等の説明 ◇学年・学級経営案、週案に基づく実践 ◇校務分掌に基づく計画及び準備と実践 第１回学校運営協議会　4/30 学校経営方針の説明と承認 今年度の取組の説明と意見交換 ◇日々の授業や休み時間、登下校の様子の把握と対応 ◇日々の協働的OJTにおける共助体制による状況把握と対応 ◇学力調査及び学習状況調査の結果分析に基づく対応 ◇児童への生活アンケート（月１回）に基づく対応 ◇保護者面談等に基づく対応 ◇体力運動能力テストに基づく対応 ◇週案の内容に基づく対応 ◇面談シートに基づく管理職と教職員との面談 ◇育友会との情報交換に基づく対応 ◇地域の関係者との情報交換に基づく対応 ◇前期学校評価アンケート等に基づく対応
	5	20　運動会	
	6	9　授業参観 18～19　６年宿泊体験学習 （国立能登青少年交流の家）	
	7	17　１学期終業式 21　夏季休業(～8/31) 21､22　１学期通知表渡し 28　金沢「絆」の日	
二学期	8	20　ジュニアかなざわ検定	
	9	1　２学期始業式 30　６年連合体育大会	
	10	6　１～４年遠足 27or28or29　６年連合音楽会	
	11	２～６　みんま授業参観週間 19､20　５年宿泊体験学習（銀河の里キゴ山）	第２回学校運営協議会　11/5 前期学校評価の報告 学習指導・生徒指導・特別活動等の取組の報告 今後の学校運営に向けての意見交換 ◇県評価問題、英語学力調査の結果分析に基づく対応 ◇後期学校評価アンケート等に基づく対応
	12	７～９　５年演劇鑑賞教室 １～４（いずれか）　５年英語学力調査 23､24　２学期通知表渡し 25　２学期終業式 26～1/6　冬季休業	スクールフォーラム　1/28 今年度の取組による成果と課題についての報告 次年度に向けた方向性の明示
三学期	1	５～17　小中学校合同展 7　３学期始業式 28　授業参観、懇談会、スクールフォーラム	
	2	24　６年生を送る会リハーサル （保護者向け公開） 25　６年生を送る会	第３回学校運営協議会　1/28 後期学校評価の報告 学習指導・生徒指導・特別活動等の取組の報告 次年度の学校運営に向けての意見交換 学校運営協議会パンフレットの内容確認 ◇次年度の教育課程の編成及び校務分掌の見直し ◇次年度の学校経営方針の作成
	3	（未定）　卒業式 24　３学期終業式 （未定）　離任式 25～31　学年末休業	

９　教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づく取組

（１）勤務時間を意識する取組

・「１ヶ月時間外在校等時間の平均時間を 30 時間以内にする」「１ヶ月時間外在校等時間が 80 時間を超える教職員をゼロにする」ことを念頭に置いた業務量の管理

・定時退庁日の設定（月２回以上）や目標退庁時刻の設定　等

（２）日課表の見直しによる取組（R7 検討、R8～実施、検証）

・日課表の見直しによる放課後の業務時間の確保

・教職員の勤務時間明示を含む「学校基本ガイド」配付による保護者、地域への理解　等

（３）担当業務の見直しによる取組

・学年Ｔ・Ｔや教科担任、学級交換授業等による教材研究の実施と共有　等

（４）「チーム学年」で児童を指導・支援する取組

・生徒指導上の諸問題の未然防止に向け、教員個々ではなく、学年・学校としての共助体制による積極的な生徒指導及び児童・保護者への適切な対応による取組　等